

# 令和5年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第8号 (11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和5年10月26日発表：沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	ほぼ平年並

○11月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシ ンクイハマキ・イネヨトウ) (夏植え)	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
レタス	① アブラムシ類	やや多	↗	並	例年の発生量の推移 (↗)
	② アザミウマ類	並	↘	やや多	例年の発生量の推移 (↘)
	③ ハスモンヨトウ (成虫)	並	↘	並	例年の発生量の推移 (↘)
へちま	① ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② タバココナジラミ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○11月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
小 ギ ク	①	黒斑・褐斑病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	アザミウマ類	並	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	③	アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	④	カスミカメ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤	ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンシヨ	トリバ類	幼虫が葉を食害する。例年より被害葉率が高く多くのほ場で発生が見られた。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。
かんきつ ( タン カン )	サビダニ類	一部のほ場でサビダニ類による被害果が見られた。肉眼では発見しにくいので、被害果が見られたほ場では、速やかに防除を行う。また例年発生の多いほ場では、予防的に薬剤を散布する。
	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれ商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
	吸蛾類	多くのほ場で吸蛾類による被害果・落果が見られた。被害果実は、吸汁痕を中心に軟化・腐敗し、落果する。樹を防虫ネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。
マン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類・ナカジロフサヤガ ・ハマキガ類、シャクガ類	一部施設でコシロモンドクガ、タイワンキドクガ、オオセンダンヒメハマキの発生が見られた。ガ類幼虫は新葉を食害するので、発生源となる不要な新梢を取り除く。また施設内を見回り、幼虫や食害痕が見られたら早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。
（ピ 施 ー 設 マ ン ン	チャノホコリダニ	一部施設で多発生がみられた。25℃での卵から成虫までの発育期間は8～11日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。また、薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は丁寧に行う。
小 ギ ク	Gibellulopsis chrysanthemiによる新病害	昨年発生（年末用小ギク）の新病害である。本病は葉にえそ斑紋のような症状を呈し、症状が進行すると下葉が枯れ上がり商品価値を著しく低下させる。今月の調査での発生ほ場率は22.2%であった。防除対策としては健全苗を植え付ける。かん水の時に土が跳ね上がらないように注意する。罹病葉は伝染源となるので速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。

# 令和5年度 宮古群島 病害虫発生予報 第8号 (11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和5年10月26日発表: 沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	ほぼ平年並

○11月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
さとうきび	①	メイチュウ類 (カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ) (夏植え)	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	②	マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
かぼちゃ	①	斑点・褐斑細菌病	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	②	アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③	ハモグリバエ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫 (宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類・ナカジロフサヤガ ・ハマキガ類、シャクガ類	一部施設でナカジロフサヤガの発生が見られた。 ガ類幼虫は新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を取り除くか、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。

# 令和5年度 八重山群島 病害虫発生予報 第8号 (11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和5年10月26日発表：沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	ほぼ平年並

○11月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
さとらきび	① メイチュウ類 (カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ) (夏植え)	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンガ	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫 (八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類・ナカジロフサヤガ ・ハマキガ類、シャクガ類	一部施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガの発生が見られた。 ガ類幼虫は新葉を食害するので、発生源となる不要な新梢を取り除く。また施設内を見回り、幼虫や食害痕が見られたら早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。 カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。